

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第118回

(平成29年7～9月期)

平成29年11月

桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成29年9月1日
3. 調査期間 平成29年7～9月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数138企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数16企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数66企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数30企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数26企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-35**。前期（-27）比は-8ポイントであった。また前年同期（-38）比では-3ポイントであった。

業種別では、**建設業-13**（前期比-1、前年同期比+2）、**商業・サービス業-48**（前期比-18、前年同期比±0）、**機械金属製造業-4**（前期比+3、前年同期比+13）、**繊維製造業-50**（前期比±0、前年同期比+2）となった。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-39**。前期（-34）比は-5ポイント、前年同期（-33）では-6ポイントであった。

業種別では、**建設業-19**（前期比+5、前年同期比+17）、**商業・サービス業-49**（前期比-8、前年同期比-5）、**機械金属製造業-15**（前期比-4、前年同期比-2）、**繊維製造業-50**（前期比-4、前年同期比+2）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-31**。前期（-34）比では+3ポイント、前年同期（-31）比では±0ポイントであった。

業種別では**建設業±0ポイント**（前期比+20、前年同期比+31）、**商業・サービス業-41ポイント**（前期比-5、前年同期比-9）、**機械金属製造業±0ポイント**（前期比+23、前年同期比+8）、**繊維製造業-53ポイント**（前期比-3、前年同期比-17）となっている。

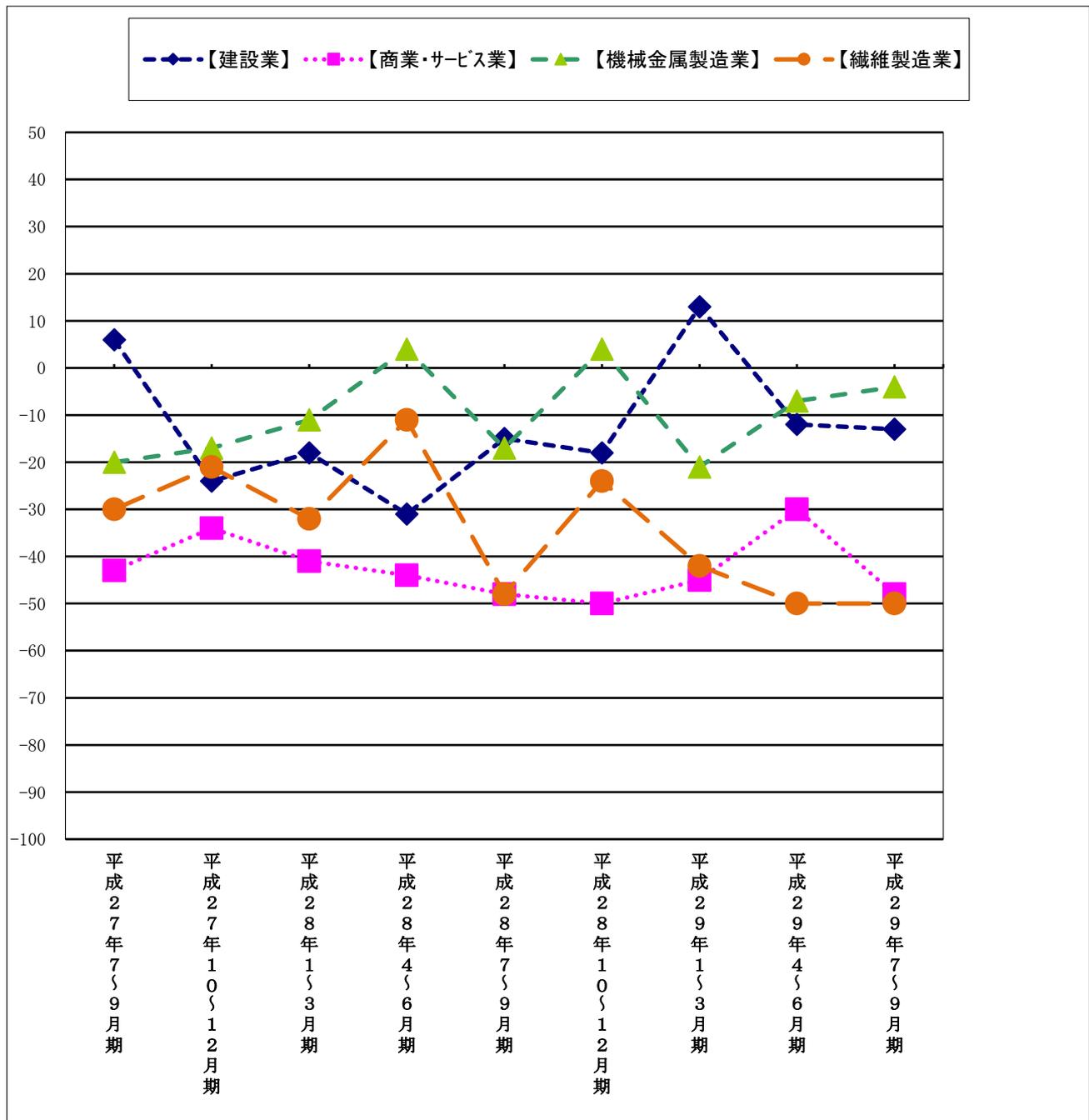
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「従業員の確保難」（22%）、「民間需要の停滞」（17%）、**商業・サービス業**では「需要の停滞」（16%）「消費者ニーズの変化への対応」（14%）、**機械金属製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（16%）「生産設備の不足・老朽化」（14%）、**繊維製造業**では「需要の停滞」（24%）「生産設備の不足・老朽化」（15%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成27年7～9月期	6	-43	-20	-30
平成27年10～12月期	-24	-34	-17	-21
平成28年1～3月期	-18	-41	-11	-32
平成28年4～6月期	-31	-44	4	-11
平成28年7～9月期	-15	-48	-17	-48
平成28年10～12月期	-18	-50	4	-24
平成29年1～3月期	13	-45	-21	-42
平成29年4～6月期	-12	-30	-7	-50
平成29年7～9月期	-13	-48	-4	-50

[平成27年7～9月期] から [平成29年7～9月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-13**。前期比は-1、前年同期比では+2であった。
業種別では**建築・大工業〔±0〕、土木業〔±0〕、電気工事業〔-50〕、その他〔±0〕**であった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは±0**。前期比+20、前年同期比では+31ポイントであった。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-48**。前期比は-18、前年同期比では±0ポイントであった。
業種別では、**卸売業〔+17〕、小売業〔-52〕、飲食業〔-13〕、サービス業では〔-81〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-41**。前期比-5、前年同期比では-9ポイントであった。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-4**。前期比では+3、前年同期比では+13ポイントであった。
業種別では、**鉄鋼業〔-25〕、金属製品業〔±0〕、一般機械器具業〔±0〕、輸送用機械器具業〔+33〕、精密機械器具業〔±0〕、プラスチック製造業〔±0〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは±0**。前期比+23、前年同期比+8ポイントとなった。

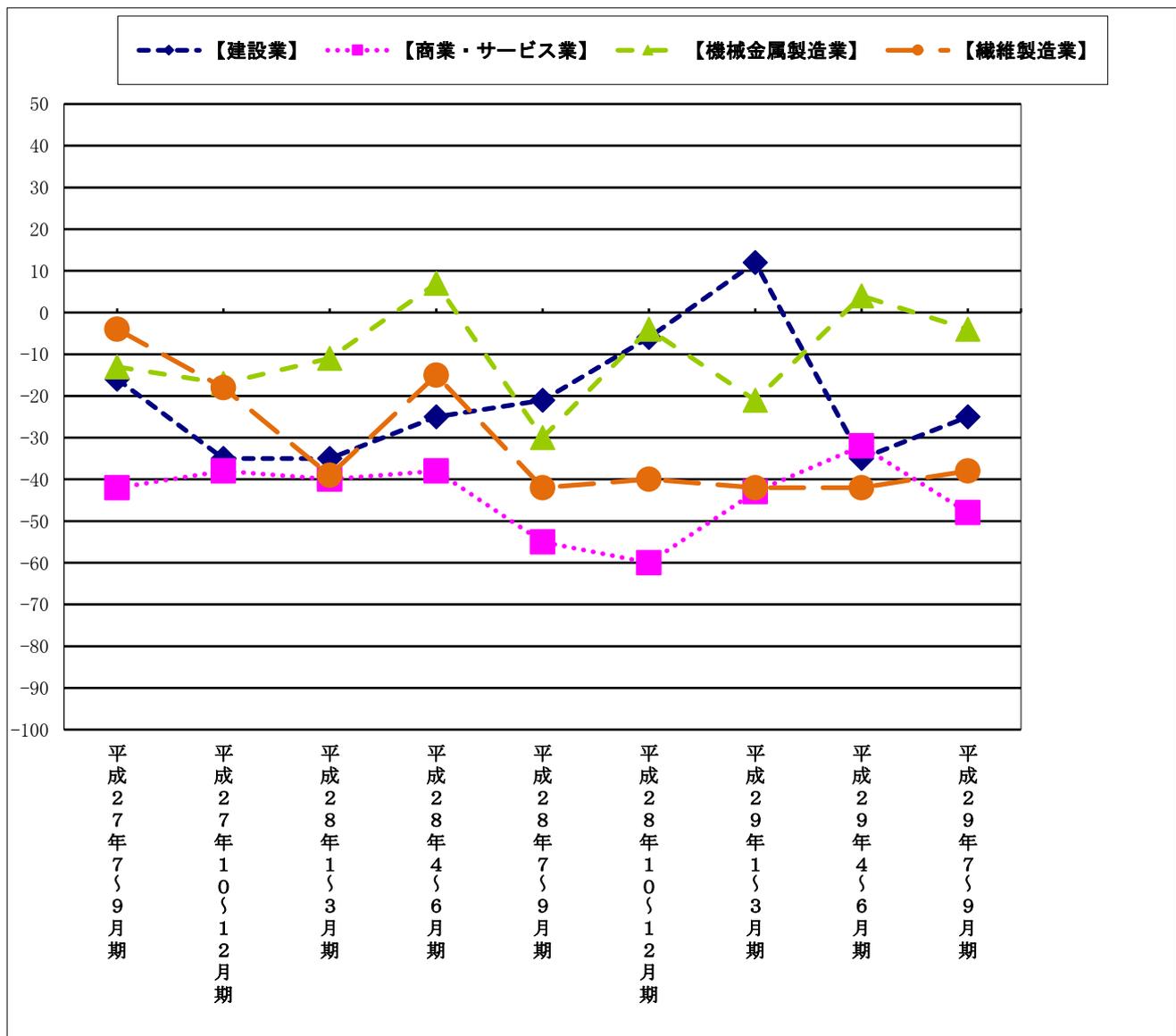
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-50**。前期比では±0、前年同期比では+2ポイントであった。
業種別では、**燃糸業〔-100〕、織物業〔-18〕、染色整理業〔-50〕、ニット・メリヤス業〔-100〕、縫製業〔-100〕、刺繍業〔-50〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-53**。前期比-3、前年同期比では-17ポイントであった。

売上額（完成工事額）DIの推移

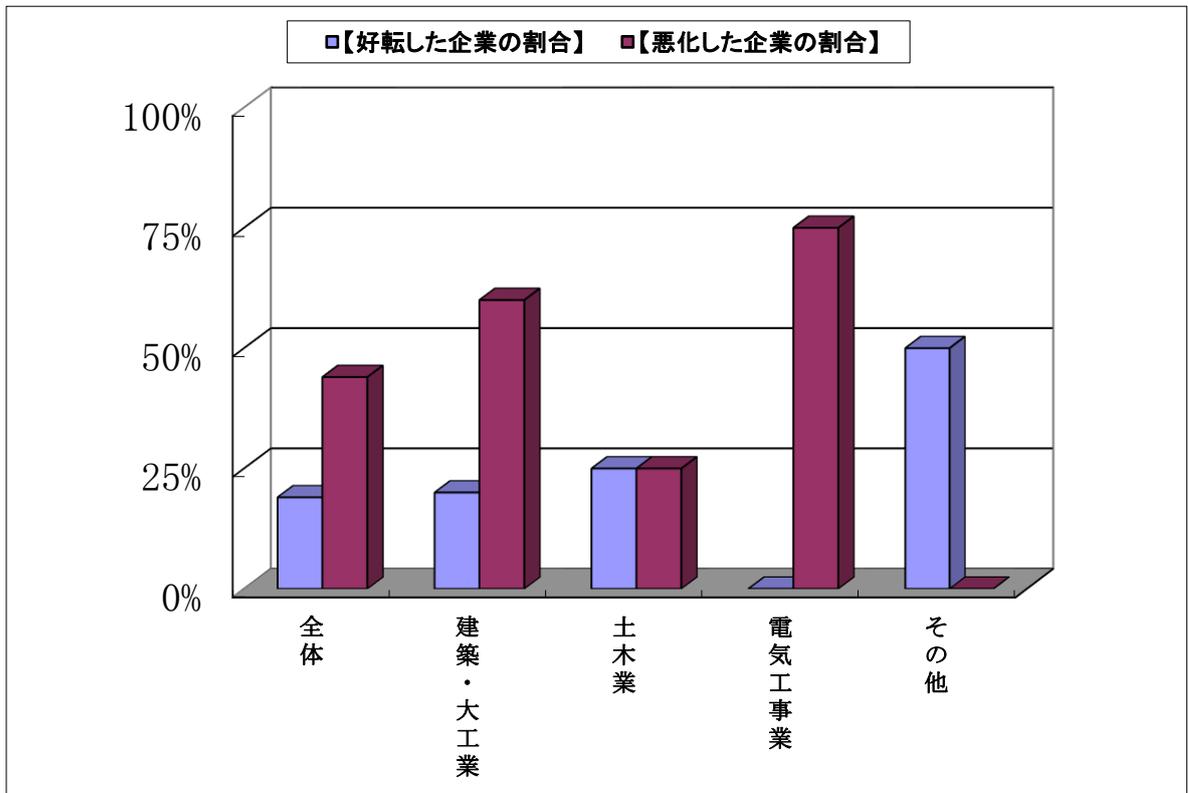
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成27年7～9月期	-16	-42	-13	-4
平成27年10～12月期	-35	-38	-17	-18
平成28年1～3月期	-35	-40	-11	-39
平成28年4～6月期	-25	-38	7	-15
平成28年7～9月期	-21	-55	-30	-42
平成28年10～12月期	-6	-60	-4	-40
平成29年1～3月期	12	-43	-21	-42
平成29年4～6月期	-35	-32	4	-42
平成29年7～9月期	-25	-48	-4	-38

[平成27年7～9月期] から [平成29年7～9月期]

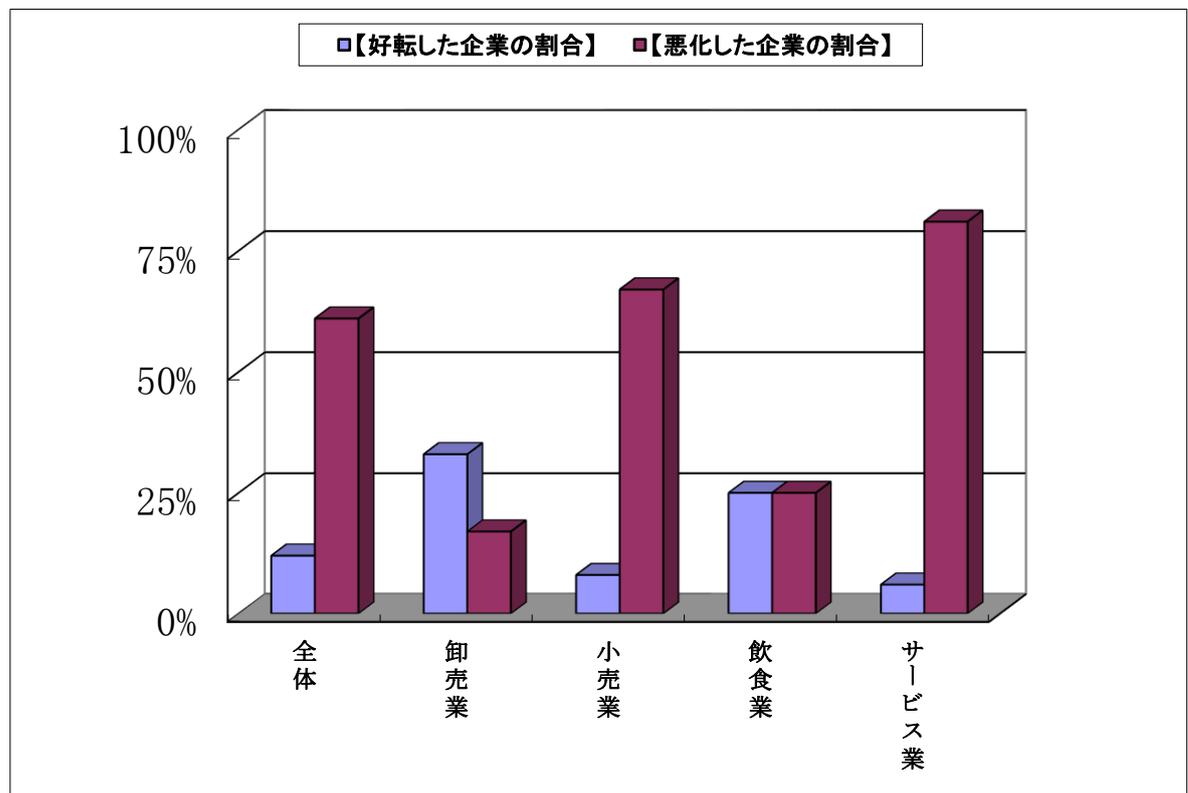


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

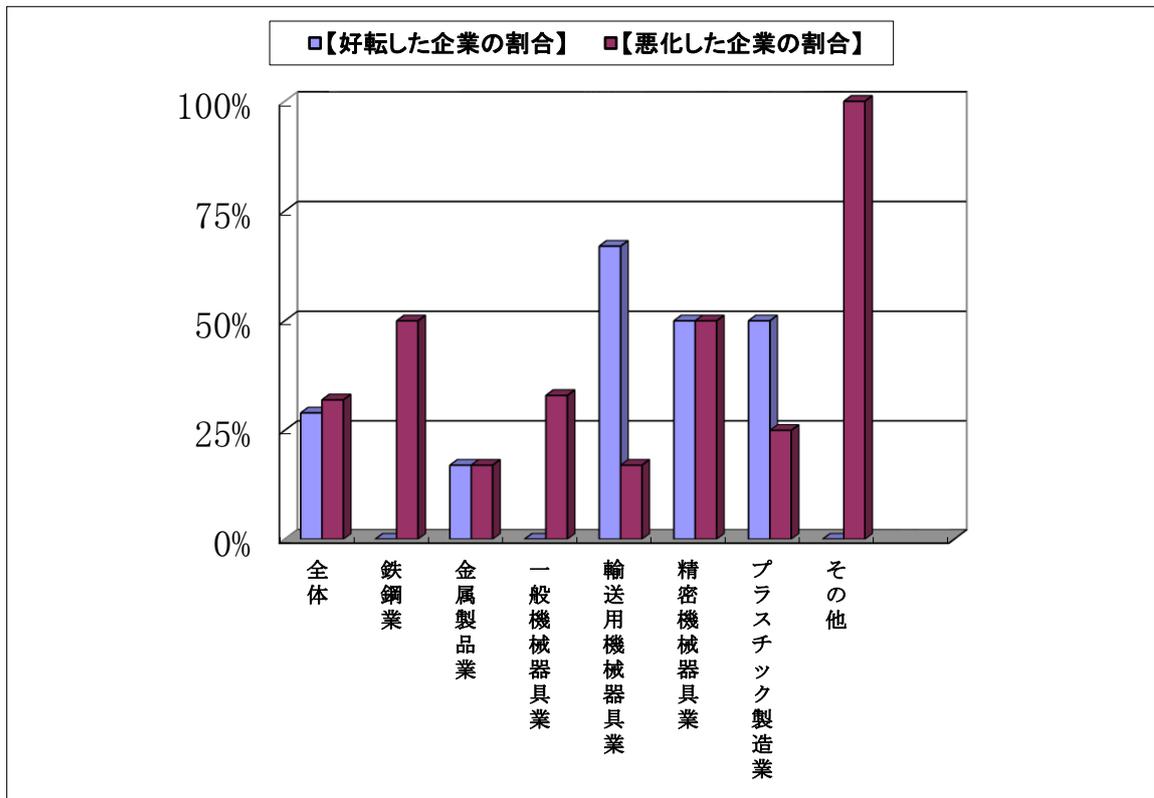
【建設業】



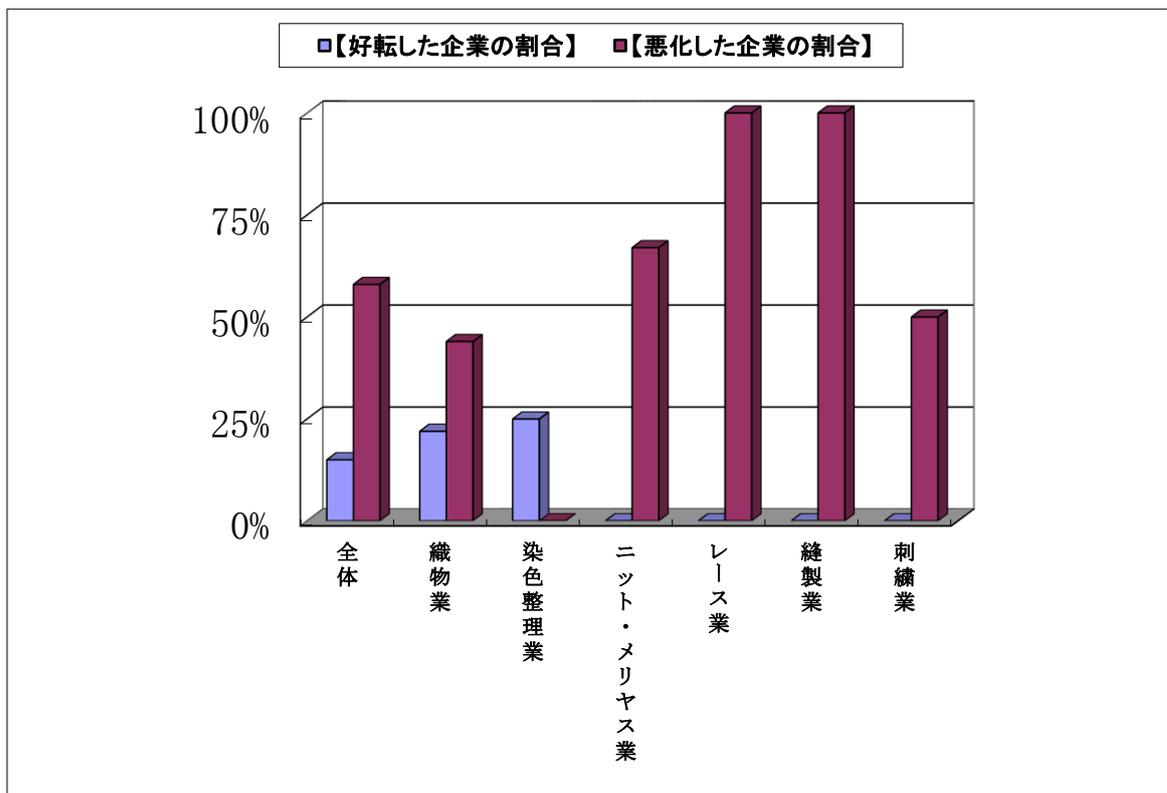
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



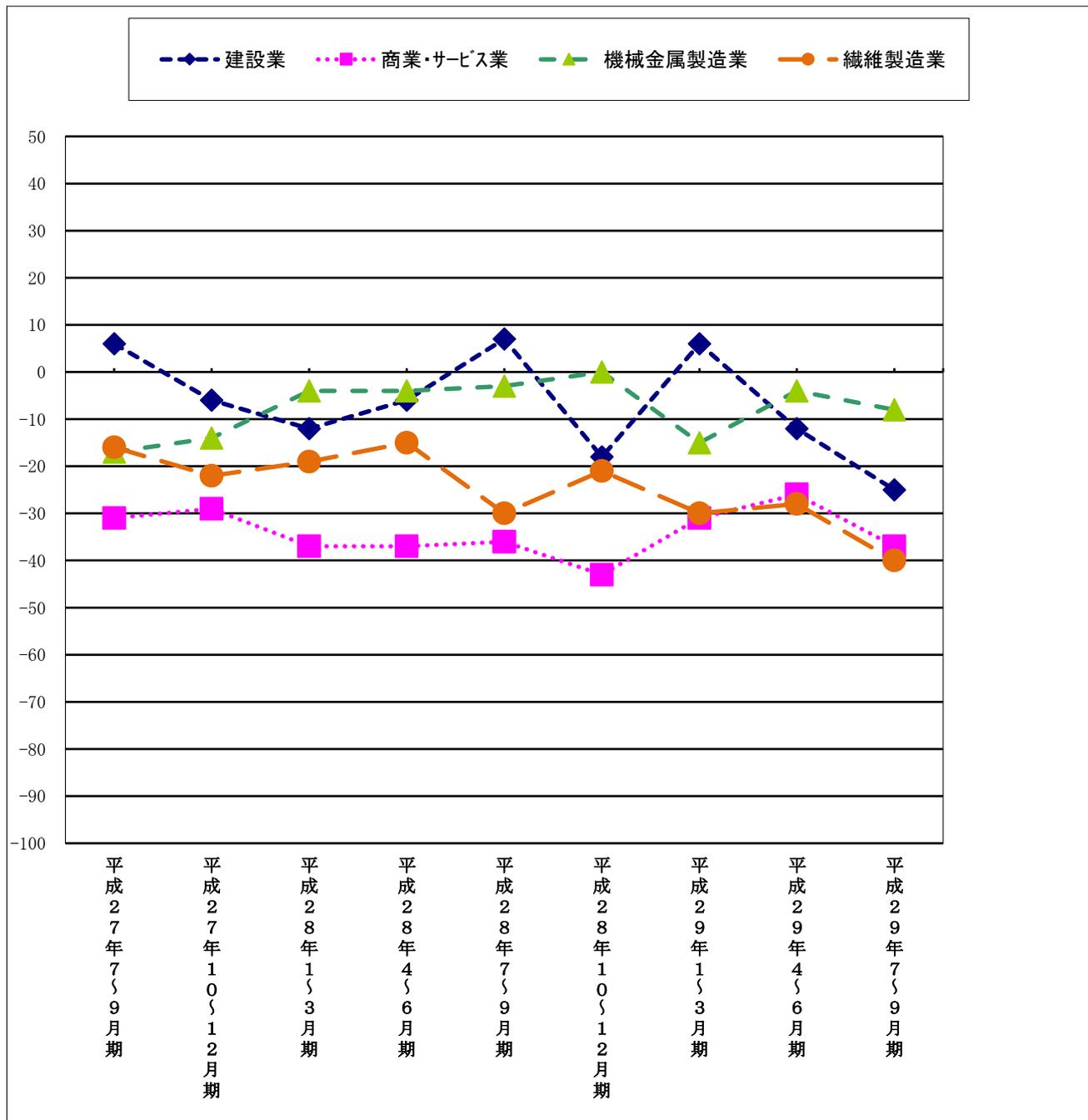
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成27年7～9月期	6	-31	-17	-16
平成27年10～12月期	-6	-29	-14	-22
平成28年1～3月期	-12	-37	-4	-19
平成28年4～6月期	-6	-37	-4	-15
平成28年7～9月期	7	-36	-3	-30
平成28年10～12月期	-18	-43	0	-21
平成29年1～3月期	6	-31	-15	-30
平成29年4～6月期	-12	-26	-4	-28
平成29年7～9月期	-25	-37	-8	-40

[平成27年7～9月期] から [平成29年7～9月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)	
建設業	従業員の確保難 22.0	民間需要の停滞 17.1	請負単価の低下・ 上昇難 12.2	熟練技術者の 確保難 9.8	材料価格の上昇 9.8	
前期	2位 16.7	1位 19.0	3位 11.9	3位 11.9	6位 7.1	
前年同期	2位 15.8	3位 13.2	3位 18.4	6位 5.3	5位 7.9	
商業・サービス業	需要の停滞 16.2	消費者ニーズの 変化への対応 14.5	購買力の他地域 への流出 11.6	大企業進出での 競争激化 8.1	ネット販売の拡大 6.4	
前期	1位 18.5	2位 14.7	3位 8.7	6位 6.5	5位 7.1	
前年同期	1位 17.9	2位 15.2	3位 12.5	6位 5.4	5位 6.0	
機械金属製造業	製品単価の低下・ 上昇難 16.0	生産設備の不足・ 老朽化 14.7	従業員の確保難 13.3	原材料価格の 上昇 12.0	熟練技術者の 確保難 10.7	
前期	1位 16.4	5位 9.6	3位 11.0	8位 6.8	3位 11.0	
前年同期	1位 16.5	3位 13.9	6位 7.6	7位 5.1	4位 11.4	
繊維工業製造業	需要の停滞 24.3	生産設備の不足・ 老朽化 15.7	製品単価の低下・ 上昇難 15.7	製品ニーズの 変化への対応 10.0	取引条件の悪化 5.7	従業員の確保難 5.7
前期	1位 24.2	2位 13.6	2位 19.7	4位 10.6	8位 2.0	7位 4.1
前年同期	1位 22.7	3位 12.1	1位 22.7	4位 9.1	5位 7.6	5位 7.6

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成27年7～9月期	12	-8	14	-8
平成27年10～12月期	6	-10	7	-8
平成28年1月～3月期	±0	-13	±0	-8
平成28年4月～6月期	±0	-6	-4	12
平成28年7月～9月期	-21	-5	-7	-5
平成28年10月～12月期	-24	-11	-8	-17
平成29年1月～3月期	-6	-14	-4	-13
平成29年4月～6月期	-24	-6	15	-13
平成29年7月～9月期	-13	-12	4	-26

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【商業・サービス業】

- ・客の高齢化（小売業）
- ・自業種は、テレビ等で取り上げられ、ここ2～3年全国的には引き合いが増え、メーカー機械在庫品切れ等発生するなど全体としてブームだが、当社では感じられない。地域差などあるのだと感じるが、質の良い出店企画を売りにアピールしたい。（卸売業）
- ・政府は商店街の新陳代謝を加速させる方策を考えている様だが、この不況はそんな甘い考えでは上手く行くはずはない。バブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災、デフレ不況と、実態は厳しい状況である。（小売業）
- ・ネット販売によるショールーミング化がこの夏場は特に目立っていた。取扱い商材の洗いなおしが必要。（小売業）
- ・郊外店への客の流出。（小売業）

【繊維工業】

- ・見本市などにおいてインテリア関連商品の海外製品で多く販売されていることから、新規商品の開発を行う必要がある。（レース業）

【機械金属】

- ・受注変動へのリスク対応。（輸送用機械器具業）
- ・異業種を含め、種々の引き合いが有るも、現設備が特定製品対応中心となっているため、社内加工対応に限界があり、チャンスロスを招いている。（一般機械器具業）
- ・従来の取引先の受注が大きく減少したため、営業展開をしていたが、その結果がでつつある。売上は減少するが、高付加価値製品への受注を拡大していきたい。ただし若干の設備投資や熟練技術員の増強が必要となる。（金属製品業）

【建設業】

- ・官民とも土木工事が停滞している（土木業）